

第 8 8 2 回教育委員会定例会会議録

1 招集日時 平成 2 8 年 7 月 1 4 日 (木) 午後 1 時 3 0 分

2 招集場所 教育委員会会議室

3 出席者 高橋教育長, 伊藤委員, 佐竹委員, 遠藤委員, 奈須野委員, 齋藤委員

4 説明のため出席した者

鈴木教育監兼教育次長, 志子田参事兼総務課長, 伊藤教育企画室長, 菊田参事兼福利課長, 山本教職員課長, 清元参事兼義務教育課長, 門脇特別支援教育室長, 岡高校教育課長, 横山参事兼施設整備課長, 松本スポーツ健康課長, 鎌田全国高校総体推進室長, 新妻生涯学習課長, 田村全国高校総合文化祭推進室長, 山田技術参事兼文化財保護課長 外

5 開 会 午後 1 時 3 0 分

6 第 8 8 1 回教育委員会会議録の承認について

教 育 長 (委員全員に諮って) 承認する。

7 第 8 8 2 回宮城県教育委員会定例会会議録署名委員の指名, 議事日程について

教 育 長 奈須野委員及び伊藤委員を指名する。
本日の議事日程は, 配付資料のとおり。

8 秘密会の決定

5 議事

第 1 号議案 職員の人事について

第 2 号議案 宮城県産業教育審議会委員の人事について

第 3 号議案 高等学校入学選抜審議会専門委員の人事について

教 育 長 5 議事の各号議案については, 非開示情報等が含まれているため, その審議等については秘密会としてよろしいか。
(委員全員に諮って) これらの審議については, 秘密会とする。
秘密会とする第 1 号議案については, 本日速やかに処理する必要があるため, 先に第 1 号議案を審議することとし, 残る案件は, 8 の次回教育委員会開催日程の決定後に説明を受けることとしてよろしいか。
(委員全員異議なし)

※ 会議録は別紙のとおり (秘密会のため非公開)

9 課長等報告

(1) 平成 2 9 年度県立高等学校組織編制計画について

(説明者: 教育企画室長)

平成 2 9 年度県立高等学校組織編制計画について, 御報告申し上げます。

資料は, 1 ページである。

本件については, 7 月 1 日の文教警察委員会に報告した後, 来年度の公立高等学校入学選抜と併せて, 記者発表し公表したところである。

来年度の組織編成計画については, 平成 2 6 年 7 月に公表した「栗原地区及び本吉地区における県立高校の再編について」に基づく「学級減」を進めることとしている。

当該「学級減の措置」は, 本吉地区の「気仙沼高校」の全日制課程で 1 学級の減を実施するものであり,

本吉地区において平成30年4月に実施する気仙沼高校と気仙沼西高校の再編統合へ向けて、平成28年度の気仙沼西高校での学級減に続いて実施するものである。

高校が所在する地元の首長をはじめとした関係者の皆様には、これまで説明を行ってきており、御理解をいただいているところである。

本件については、以上である。

(質 疑) 質疑なし

(2) 平成28年度宮城県学力・学習状況調査結果(速報)について

(説明者：義務教育課長)

平成28年度宮城県学力・学習状況調査結果の速報について、御説明申し上げます。

資料は、2ページから12ページである。

はじめに、資料2ページを御覧願いたい。

「1 実施状況」であるが、「(1) 調査の目的」から「(6) 実施児童生徒数」については、記載のとおりであり、今年で3回目の実施となる。

資料3ページに今回の結果を<表1>としてまとめている。

小5の国語を除き、期待値とほぼ同程度の範囲となっているが、全体として、期待値には届いていない状況である。

資料4ページからは、各教科についてのデータをまとめているので、後ほど御覧願いたい。

資料9ページから資料11ページには、「(7) 質問紙調査結果の概況」をまとめている。

特に、資料10ページの「②震災の影響」については、家庭学習がやりにくくなったと回答している中2の割合が減少したものの、依然として、小5においては約2割、中2においては約1割の児童生徒が、震災の影響を感じていると回答している。

最後に、今回の結果を踏まえた今後の対応について、資料12ページに記載している。

調査の結果、小5、中2ともに全体的に平均正答率が期待値を下回っていることから、改めて、県教育委員会で示している「学力向上に向けた5つの提言」を全ての教員が実践していくよう、働き掛けてまいる。

特に、児童生徒の質問紙調査の回答からは、声掛けや励まし等、教員からの働き掛けがあるという割合が、小・中学校とも約7割にとどまっており、依然として教員との意識の間に大きな隔りがあることが示されている。

このことを大きな課題と認識し、教員の関わり方は、児童生徒の学習意欲や人間関係の形成等、学習の基盤づくりを左右するものであり、このことを教員自身が明確に意識しながら取り組むよう、指導主事による学校訪問や各種の研修の機会を捉えて、授業での実践を促してまいる。

また、震災の影響を感じている児童生徒が、未だ、小5で約2割、中2で約1割いることを重く受け止め、今後も児童生徒の姿を注意深く見守りながら、継続して子どもの心のケアに努め、落ち着いて学習できる環境整備を一層進めてまいる。

今後は、調査初年度から3年間の経年変化についても詳細な分析を行い、4月に実施された全国学力・学習状況調査の分析結果とも連動させながら、検証改善委員会において更なる改善方策を検討し、市町村教育委員会と連携して、学力向上に向けた具体的な取組を進めてまいる。

本件については、以上である。

(質 疑)

伊藤委員

資料12ページの「3 今後の対応について」、小・中ともに平均正答率が期待値を下回り、それに対して「学力向上に向けた5つの提言」を実践していくよう働きかけるとの説明があった。

具体的には、先生方が声を掛けたり励ましたりすることであると思うが、現状では、そうは感じていない生徒もまだまだ多いということが背景にある。これについては、指導主事訪問や研修会等を通じて、各先生が徹底してすぐに取り組んでいただきたい。

また、経年比較することで、指導主事訪問や各種研修会の成果が確実に上がるように

していただきたい。

子どもたちは自分の良いところを認めてくれるとか話を聞いてくれることにより、それを自分自身で受けとめることで自信が出てくる、自信を持つことで意欲も出てきて、必ず良い成果に繋がると思うので徹底をお願いします。

佐 竹 委 員

資料11ページの「⑤ 自尊意識・規範意識と関連する事項」について、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問で、よいところがあると思っている子どもは、中2では66.4%である。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、小5で92.3%であるのに対して、中2になると75%に下がっている。

「いじめは、どんな理由があってもいけない事だと思いますか」の質問では、小・中とも9割以上がそう思っていると回答しているが、これは限りなく100%に近づいて欲しいと思うので、その意識改革も重要なのではないかと思う。

指導方法については、どこに重点をおいてどのように子ども達の心に響かせて、自分のこととして考えさせるかが重要となってくる。

その上で資料9ページを見ると、「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」の質問では、小学校も中学校も7割の子どもたちは声を掛けられていると感じているが、残り3割は声を掛けられているという認識がない。声を掛けているとは思いますが、子どもたちは掛けてもらっていると感じていない。

「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」については、中学校になると8割弱の子どもたちだけが認められていると感じている。中学生にもなると先生に認められているという事が、何よりも大きな力となり、自信に繋がっていくと思う。今回の質問では、子どもたちが認められていると感じていないということが、結果として表れていると思う。

子どもたちが小学校の時に抱いていた夢が継続できるよう、さらに膨らんで、減ることのないように、自分の良いところが見つけられるような教育をして、自尊心や規範意識に対しての見直しが必要であると思う。

学校だけではなく家庭との連携も必要である。学校では声を掛けているつもりでも、自分の子どもは声を掛けられていないという話が家庭とできれば、先生方にとっても改善の方法が見つかると思う。

学校と家庭がそうした連携をすることで、全ての児童・生徒がいじめはいけない事であり、自分にはこんな良いところがあるんだと胸を張って言うことができ、夢や希望を持つ子どもたちが増えていくような「志教育」の推進に取り組んでいただきたい。

75%の子どもたちしか、夢や希望が持てないと回答している。100人中の25人が夢も希望もないということであり、全体の人数になると、どの位の人数になるだろうと考えると悲しくなるので、学校と家庭の連携を深めた上で、子どもたちの意識を向上させてあげられるような指導方法を構築していただきたい。

調査での期待値は高ければ高いほど良いが、少しずつでも子どもたちに夢や希望が芽生えられるような、志教育を目指す本県の教育でありたいと思うので、期待値が上がるような指導を心掛けていただきたい。

遠 藤 委 員

資料9ページの「児童生徒質問紙調査の結果」について、「学力向上に向けた5つの提言」に対する子どもたちの回答が記載されている。

経年比較を見ると、中学校2年生では質問のNo4, 5, 6, 7, 8の評価が、昨年よりも向上しており、小学5年生では、No5, 6の評価が向上している。これらの指標からは、5つの提言に対する子どもたちの評価はよく、効果が上がってきていると読み取ることができると思う。

これに対して、資料11ページの「学校質問紙調査の結果」での学校側からの評価を見ると、中学校2年生ではNo3, 4, 5, 6, 8, 10の評価が、昨年よりも高くな

っており、小学校5年生ではN o 4, 5ではマイナスになっており、中学校よりも少し評価が低くなっていることが読み取れる。

特にN o 4「習熟の遅いグループに対する少人数指導」が低くなっており、N o 5「習熟の早いグループに対する発展的な内容」も低くなっていることから、小学校の先生方が苦戦している様子が窺える。

一方、N o 6「実生活における事象との関連を図った授業」については、小学校も中学校も生活に活かす勉強の方法を行っていると思う。

また、注目すべきことは資料9ページのN o 6「授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか」の質問に対して、小学生も中学生も良い評価をしていることである。教えられるだけではなく、自分で学んだことを咀嚼して、考えを書くという勉強のスタイルが定着しつつあると思う。

是非、5つの提言の取組を今後とも推し進めて、現場でも良い部分をくみ取ってさらに進めていただきたい。

高橋教育長

5つの提言に対する質問で、昨年と比較してプラスになっている項目については、しっかりと評価しながら、との御意見であり、取組はまだこれからということで、声掛けや話を聞くといった両面を示しながら、学校現場において5つの提言が定着するように取組を進めるようお願いする。

奈須野委員

資料9ページの質問N o 1から3については、子どもたちとの信頼関係を構築していく上で非常に重要であると思う。

今後の対応について、生徒と学校現場との隔たりを解決するために、指導主事訪問や研修会などで徹底していくとのことであるが、そのためには現場の先生同士で話し合うことが非常に重要であると思う。

子どもたちとの信頼関係はいわば顧客満足度のようなものであり、それを構築していくためには現場で話し合わなければ出来ない事もたくさんある。その上で、必要な知識は研修などで学ぶべきものであると思う。

現場の先生方は、なかなか忙しくて出来ない事もあると思うが、是非、学校現場の中でこうした面での話し合いを作っていただきたい。場合によっては、話し合いを行ったかどうかの報告を求めるなどの促し方も必要であると思うがどうか。

義務教育課長

委員御指摘のとおりである。先生方自身がどれだけ必要性を感じて、自分達の働きかけがいかに大切であるかを認識して、仕掛けていくことが必要であると思う。

特に、指導主事訪問の中では、色々な課題について先生方で話し合う場も設けているので、そこで話し合うことも1つの方法であると思う。話し合いでは、それぞれの取組についてお互いに意見交換しながら、進めていければと良いと考えている。

(3) 平成28年度「みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム」の開催について

(説明者：義務教育課長)

「みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム」の開催について、御説明申し上げます。

資料は13ページである。

このフォーラムは、児童生徒がいじめ問題の未然防止や根絶について主体的に意見交換や防止策を提案することを通して、いじめを許さないという意識を、学校はもとより広く一般にも醸成していくことを目的に実施するものである。

今回は、8月9日(火)に、仙台市を除く34市町村の公立中学校及び県内の私立中学校の代表生徒118名が参加して、県庁の講堂で行うもので、今回で通算5回目の開催となる。

当日は、開会行事の中で参加者に向けた知事のメッセージがビデオで流されるほか、教育委員会からのメッセージを、直接、読み上げていただきたいと考えている。

それらのメッセージについては、後日、県内のすべての小・中学校へ送り、児童生徒のみならず、すべて

の保護者にも配布する。

また、フォーラムでは、30名を超える大学生ファシリテーターの進行により、中学生がグループに分かれて、いじめについて各学校の取組を発表するとともに、いじめを生まない学校づくりのアイデアを出し合い、それをポスターにまとめて発表する予定としている。

さらに、閉会行事では、本県にゆかりのある著名人からビデオメッセージをいただく予定である。

また、このフォーラムの中で、県内の小・中学校から募集した、いじめゼロを目指すCMコンクールの表彰式も行うこととしている。

本件については、以上である。

(質 疑) | 質疑なし

(4) 平成28年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

(説明者：高校教育課長)

「平成28年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について」御説明申し上げます。

資料は、14ページと別冊資料である。

はじめに、資料14ページを御覧願いたい。

「1 目的」について、本分析は、入学者選抜における学力検査問題について検討し、今後の問題作成の改善に役立てること、また、検査結果から受験者の学習状況を把握し、中学校・高等学校における学習指導の参考とするものである。

次に、「3 分析方法」について、分析に当たっては、全日制課程の受験者のうち、前期選抜では、25校200人、後期選抜では、50校400人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察したものである。

加えて、調査書点をもとに上位、中位、下位の3つの成績層に分け、階層別の得点率や誤答傾向についても分析を行った。

「4 分析結果」について、別冊資料の4ページを御覧願いたい。

図1のグラフは、前期選抜学力検査の、全日制課程全受験者の総点の分布を、図2～4のグラフは同じく各教科の得点分布を示したものである。

総点については、平均点付近を頂点とし、ほぼ左右対称となっており、正規分布に近いグラフとなっているが、これは、図2の国語においては成績中間層から上位層の得点分布が多く、それとは逆に、図3の数学では中間層から成績下位層の得点分布が多いことが反映しているものと考えられる。

さらに、数学については、得点分布のピークが平均点より低くなっているが、これは、設問の条件を正しく読み取ることが求められる問題において、中間層の得点が伸びなかったことが影響しているものと考えている。

別冊資料の28ページを御覧願いたい。

次に、後期選抜の学力検査の結果であるが、図1のグラフは、全日制課程全受験者の総点の分布を、29ページ、図2～6のグラフは各教科の得点分布を示したものである。

総点については、ほぼ正規分布のグラフとなっているが、国語を除く4教科で、前年度に比べ下位層の分布が増え、総点においても、そのことが反映した分布状況となっている。

また、英語については、やや台形型の得点分布となっており、成績中間層の受験者に2極化が見られた。

資料14ページにお戻り願いたい。

「4(2)」では、誤答例、誤答傾向や得点率・無答率等について分析し、各教科の概況としてまとめている。

誤答例、誤答傾向の分析では、漢字の読み書き、計算力、会話表現等の基礎・基本の事項に関しては知識の定着はみられるものの、特に、国語では、読み取った内容を整理し表現する力、社会では、必要な情報を正しく選択し、関連付けて表現する力、数学や理科では、情報を活用して考察し表現する力、英語では、自分の考えや気持ちなどを英語で表現する力に課題が見られた。

また、得点率・無答率等についての分析では、各教科共通して、記号や単語を選択して答える問題に比べ、

記述により解答する問題の正答率・得点率が低く、さらに無答率も高いという傾向を示しており、今後の学習指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの育成を行うため、各教科目標に則した言語活動を適切に位置づけ、授業の構成や指導のあり方を工夫改善していく必要があると考えている。

以上が分析結果についての報告となるが、高校入試は、中学校の教育を統括し、高等学校教育に円滑に接続させるという役割を担うとともに、「確かな学力」の定着という点においても、大きな意味を持つものと考えており、この点についても、精度を高め、十分な役割を担っていけるよう、今後とも中学校と連携を図りながら、なお、一層の改善に取り組んでまいりたいと考えている。

なお、別冊資料には、各教科のさらに詳細な「分析結果の概況」、「問題」、「正答と配点」、「正答率、無答率、得点率」及び「出題のねらいと内容、結果の考察」について掲載しているもので、後ほど御覧願いたい。

本件については、以上である。

(質 疑)

伊 藤 委 員 資料1 4 ページの最下段にある各教科共通の分析結果は、まったくその通りであると思う。中学校での学習の成果を表しているのが別冊資料のグラフである。

知識や理解を問う基礎的な問題の正答率が高いということは、高度情報化の中でパソコン等の機械を使った操作は上手く対応できるということであろう。しかし、これからの時代は答えのない予期しない事に、柔軟に対応していく力が求められており、これがグローバル化時代への対応ということであろう。

そうした意味では、高校に求められているのは柔軟な対応力であると、改めて私自身も感じる事ができた。今後の課題がはっきりと明確になっているので、各学校での重点的な指導をお願いする。

佐 竹 委 員 今回の報告は高校入試における分析結果であるが、一番重要な国語の表現力は、小学3、4年生で基礎をしっかりと教えないと、表現する力が上手く身に付かないと言われている。小学生のうちに大凡の基礎は出来ていると思うが、読みとった内容を整理して目的に応じて表現する力が見られないということは、やはり基礎である小学校での教育が非常に重要であるということである。

国語力がないと表現力はなかなか身に付かないので、表現力を伸ばすために、どのような工夫をして指導しているのか伺いたい。

発達障害などに限ったことではないが、口で上手く表現できないために、体で問題を起こしてしまうということがあるため、小学校のうちから表現力を養っていく必要があると思う。中学生になった時には、きちんとした基礎的な表現力が身に付くような、重点的な指導のあり方を構築していただきたい。

これから小学校でも英語教育が導入されるが、まずは原点である日本語をきちんと習得する必要がある。英語を学習する上では、英語の表現力の優れた部分を学び、日本語と比較しながら学んでいけば良いと思う。

小学生のうちから表現力を身に付け、特に国語力は3、4年生できちんと身に付けられるような指導をしていただきたい。学習として学ぶだけではなく、生きていく能力の原点がそこにあると思う。

国語力により自分のことを伝える力、表現する力が、その後の人生にも大きく影響を及ぼすので、しっかりと子どもたちに向き合って御指導いただきたい。

高 橋 教 育 長 先程の課長報告であった学力・学習状況調査の結果でも、小学校の国語が7ポイントくらい期待値よりも下がっているという現状もあった。

これまでの御意見から、国語に限らず全ての教科に関して、学力・学習状況調査や入試においても、表現力に課題があることが改めて指摘された。

今回は高校入試における中学生の結果であるが、小学校の学力状況調査の結果からも課題があることが分かっているため、各小学校でどのような取組を行っているのか確認

しながら、指導主事訪問等で小学校段階での表現力育成に向けた取組を進めていくように改めてお願いしてまいりたい。

(5) 平成29年度公立高等学校入学者選抜について

(説明者：高校教育課長)

平成29年度公立高等学校入学者選抜について、御説明申し上げます。

資料は、15ページと別冊「入学者選抜一覧」である。

資料15ページを御覧願いたい。

「1 募集定員」であるが、先ほど、教育企画室長から御報告した「県立高等学校の組織編制計画」を反映し、全日制課程と定時制課程を合わせ、15,720名で、前年比40名の減となる。

また、課程別では、全日制課程の定員は、前年比40名の減、定時制課程、通信制課程は、前年から定員の増減はない。

次に、「2 日程等」について、検査実施日が前期選抜は2月1日、後期選抜は3月8日、第二次募集は3月22日を予定している。また、実施内容、合格発表等については、資料に記載のとおりである。

なお、別冊資料として、入学者選抜一覧を配付しているが、この冊子には、前期選抜の『出願できる条件』をはじめ、全ての公立高等学校の入試情報を掲載している。

今後、製本したものを各中学校や関係機関に送付するとともに、教育委員会のホームページ上でも紹介し、受験校を選択する際の参考としていただくこととしている。

本件については、以上である。

(質 疑) 質疑なし

(6) 第41回全国高等学校総合文化祭(みやぎ総文2017)「第2期生徒企画委員」委嘱状交付式の開催結果概要について

(説明者：全国高校総合文化祭推進室長)

「第41回全国高等学校総合文化祭(みやぎ総文2017)第2期生徒企画委員委嘱状交付式の開催結果概要について」御説明申し上げます。

資料は、16ページである。

来年本県で開催する「みやぎ総文2017」に向け、昨年7月より39名の県内高校生が生徒企画委員として、大会準備を進めてきた。

去る7月5日、第2期生徒企画委員委嘱状交付式を開催し、新たに県内高校生33名が生徒企画委員に加わり、全体で72名となった。交付式では、高橋実行委員会会長から、第2期生徒企画委員に委嘱状が交付され、激励の言葉をいただいた。

第2期生徒企画委員を加え、人数構成は、「4 生徒企画委員人数構成」のとおりとなっている。

3年生の生徒は、今年の8月31日で委員の任期を終えるが、その後の活動人数は63名となり、本大会までは、この63名が生徒企画委員として活動していくこととなる。

最後に、「5」に生徒企画委員会の今後の主なスケジュールを記載している。7月30日からはじまる「2016ひろしま総文」の視察調査には、2期生を中心とした生徒企画委員44名を派遣する。

今後は、9月11日に泉中央にあるアリオ仙台泉での300日前PRイベントを全国高校総体推進室と合同で開催し、11月6日には仙台サンプラザホール、宮城野通で、プレ総合開会式、プレパレードを行い、本大会に向けて生徒主体による準備を進めてまいる。

本件については、以上である。

(質 疑)

伊藤委員

資料16ページの「4 生徒企画委員人数構成」に72名の所属校内訳が記載されているが、生徒企画委員の募集はどのように行われたのか伺いたい。記載の13校に限って募集を行ったのか、または幅広く募集した結果、この13校の生徒から申込みがあったということか。

全国高校総合
文化祭推進室室長

県内全ての高等学校に募集チラシを配付して募集を行った。
当室としては、学校単位で人数を決めるのではなく、生徒の自主性を重んじる形の手
上げ方式により、生徒個人が申し込む形で募集を行った。

伊藤委員

今後のスケジュールを見ると、今年度開催される広島への視察や300日前PRイベ
ント、11月にはプレ総合開会式、プレパレードなども予定されている。こうした様々
なイベントを通じて、他校の生徒達と連携して、本番に向けて実施体制をきちんと積み
重ねていくことは、彼らが社会に出た時に役立つ貴重な経験であると思う。

そうした意味では、先生方が必要以上に手を差し伸べる必要は無いと思うが、ここぞ
という時には先生方の御指導が必要な場面もあると思うので、来年の本大会を成功に導
くためにも是非とも御尽力をお願いしたい。

10 資料（配付のみ）

- (1) 教育庁関連情報一覧
- (2) 平成28年3月高等学校卒業者の就職内定状況
- (3) 宮城県美術館夏休み特別企画「どうぶキッズ・プログラム～“あそび”はビジュツのはじまりだ！
～」の開催について
- (4) 宮城県図書館講演会「東北のジュリエットへのラブレター」
- (5) 宮城県図書館企画展示「そうだったのか!!パラリンピック」
- (6) 東北歴史博物館ワークショップ「現代に活かす伝統の手わざ」

11 次回教育委員会の開催日程について

教 育 長 次回の定例会は、平成28年8月10日（水）午後1時30分から開会する。

12 閉 会 午後3時19分

平成28年8月10日

署名委員

署名委員